

離島漁業再生支援事業による地域活性化

北薩地域振興局 林務水産課（出水市駐在）

【背景・目的】

長島町獅子島は、八代海に浮かぶ鹿児島県最北端の離島で、静穏な海域とリアス式の複雑な海岸地形を生かし、ブリやアオサ（ヒトエグサ）の養殖等が盛んに営まれている。

しかしながら、当地域における近年の漁業経営環境は、資源の減少傾向、高齢化、魚価低迷、燃油高騰など、厳しい状況にある。

このようなことから、獅子島の4漁業集落では、離島漁業再生支援事業を活用し、カキ類等の新たな養殖手法の導入や種苗放流、販路開拓等の活動を通じて、地域漁業の維持・活性化に取り組んでいる。

【普及の内容・特徴】

平成18年度から設立した獅子島4漁業集落（幣串，御所浦，湯ノ口，片側）を離島漁業再生支援事業第4期（水産庁）を活用しながら指導・育成を図った。

今年度は、4集落から特に強い要望のあった、新規藻類養殖の検討、藻場造成の取組手法の検討、漂流物による養殖施設の被害対策について重点的に指導した。

【成果・活用】

・新規藻類養殖の検討

島内では、魚類養殖や漁船漁業よりも比較的経費を抑えることできる新たな藻類養殖の導入要望が高まっている。

今年度は、アオサに替わる新規養殖藻類を検討するため、各種藻類の養殖、種苗生産を手がけるS社の視察を実施。獅子島で養殖可能な藻類に関する情報収集を行った。その結果、S社との新規藻類養殖の共同試験の可能性など有益な情報を得ることができた。

・藻場造成の取組手法の検討

獅子島周辺海域は県内では比較的藻場が残っている地域であるが、近年その藻場の衰退が激しく、対策を求める声が上がっている。

今年度は、県内の藻場造成の先進地である山川町漁協及び垂水市のワカメ種糸生産の視察研修を実施。実際に藻場造成を行っている活動組織等からの具体的なアドバイスにより、来年以降取り組む藻場造成活動の基礎知識を得ることができた。

・漂流物による養殖施設の被害対策

近年増加する集中豪雨の影響により、漂流物（主に流木）による養殖施設への被害が多くなっており、その対策が問題となっている。

今年度は、八代海の海域環境保全活動を実施している国土交通省九州地方整備局熊本港湾・空港整備事務所八代港事務所を訪問。海洋ごみの収集事業について理解を深めるとともに、海洋ごみの回収効率を上げるために港湾事務所への漂流ごみ通報体制を新たに構築することになった。

【令和4年度 獅子島4漁業集落活動実績】

集 落 名	主 な 活 動 実 績
幣 串 漁 業 集 落 (6,924千円)	アワビ放流, ウニ駆除, 産卵用タコツボ・イカ柴・魚礁設置, イワガキ試験養殖, タコ加工品開発, 販促活動ほか
御所浦漁業集落 (4,118千円)	カサゴ・アワビ放流, ウニ駆除, 産卵用タコツボ・イカ柴・魚礁設置, イワガキ試験養殖, 販促活動ほか
湯ノ口漁業集落 (1,817千円)	アワビ放流, ウニ駆除, イカ柴・魚礁設置, イワガキ試験養殖, 販促活動ほか
片側漁業集落 (1,095千円)	イカ柴・魚礁設置, イワガキ試験養殖, 販促活動ほか



S社での藻類養殖に関する研修



山川町漁協での藻場造成研修



垂水市でのワカメ種糸生産の研修



国交省八代港事務所での
海域環境整備船の視察